



UISのiDC内に設置されたR/3システムを支える日立H9000Vサーバ。そのスピードと信頼性の高さはUISのスタッフからも高く評価されている。

宇部興産のSAP® R/3® 基幹システムを支える JP1と宇部情報システムの運用管理ソリューション

宇部興産株式会社 / 株式会社宇部情報システム

2003年4月、全社基幹システムをERPパッケージ「SAP R/3」で再構築した宇部興産株式会社（以下、宇部興産）では、システム活用と業務改革を連携させ、コスト削減と戦略的な情報活用への展開に力を入れています。一方、同社のシステム運用・保守を一手に担うのがグループ企業のSierである株式会社 宇部情報システム（以下、UIS）。UISではR/3導入プロジェクトを取りまとめた日立からのR/3運用に関する技術移行をスムーズに成し遂げ、JP1による信頼性の高い運用管理の一元化を実現しています。

5年をかけたSAP R/3大規模導入プロジェクト

化成品・樹脂、機能品・ファイン、エネルギー・環境などの化学事業を中心に、セメント・建材、機械・アルミホイールといった幅広い分野で事業を展開する宇部興産。東京と宇部の両本社のほか、大阪・名古屋をはじめとする営業拠点、宇部、千葉、堺、伊佐（山口県）、苅田（福岡県）などの生産拠点を有し、活動領域は全国に広がります。同社では1999年より、経営効率向上による企業体質のさらなる強化と、情報共有によるサプライチェーンの最適化を実現するため、SAP R/3による基幹システムの再構築に着手。R/3導入のパートナーとして日立を選びました。

財務会計、管理会計、販売管理、購買管理、生産・品質管理、サプライチェーン・スケジューラの「APO」、経営情報データウェアハウスの「BW」と、R/3のほぼ全モジュールを導入するプロジェクトは、IT投資が単年度に集中するのを避け、毎年のIT予算額の範囲内で対応しながら段階的に導入し



宇部興産 経営管理室
情報システム部長
近藤 宏史 氏



宇部興産 経営管理室 情報システム部
情報・インフラグループリーダー
岡本 浩之 氏



宇部興産ビル

UBE

技術の翼、革新の心。

宇部興産株式会社

東京本社 / 東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館

宇部本社 / 山口県宇部市大字小串1978-96

取締役会長兼代表取締役社長 / 常見 和正

創業 / 1897年6月

設立 / 1942年3月

資本金 / 435億円

売上高 / 連結5,113億円、単独2,270億円(2004年3月期)

従業員 / 連結11,397人、単独3,208人(2004年3月末現在)

ホームページ / <http://www.ube.co.jp/>

uis

株式会社宇部情報システム

本社 / 山口県宇部市相生町8番1号 宇部興産ビル

代表取締役社長 / 小谷雅透

設立 / 1983年9月16日

資本金 / 1億円

売上高 / 41億円(2003年3月)

従業員 / 270名

沿革・概要 / 1998年 通産省システムインテグレータ認定、1999年 ISO9001認証

取得、2001年(株)オージス総研資本参加、2002年 プライバシー

マーク取得。製造業を中心としたシステム開発、運用委託、企業向

けパッケージ製品の開発・販売およびDC、ASP

ホームページ / <http://www.uis-inf.co.jp/>

ていきたいという同社の意向のもと、5年という長期間にわたりました。この間、日立は独自のR/3標準開発技法「HICARE」を適用したプロジェクトマネジメントを実施し、数々の難題をクリアしながら2003年4月、予定どおりにカットオーバー。「宇部興産の100年の歴史を変える5年間」といわれたRS21(Revolution in Business Systems for The 21・UBE)プロジェクトは、みごとに成功を果たしました。

「これだけ長期間で大規模なプロジェクトは、宇部興産にとって初めての経験でした。プロジェクトマネジメントの方法論を身につけたコンサルタント要員がきちんといて、R/3のシステム構築に関する実績、経験が豊かな日立さんに5年間、全体を引っ張っていくプロジェクトマネージャーの役割を担ってもらえたのが心強かったですね。導入成果としては、まず2007年度に全社

情報システムコストの20%削減を達成できる見込みとなりました。新しいインタフェースの導入で苦勞をかけた社員の皆さんにも、業務改革と連動したシステム活用がようやく定着してきましたし、蓄積された諸情報を経営判断に役立てるBWの展開にも力を入れ始めたところです」

(宇部興産株式会社 経営管理室 情報システム部長 近藤宏史氏)



UIS 情報処理サービス事業部 部長

猪八重 雅夫氏



UIS 情報処理サービス事業部 第4G課長

中村 秀和氏

そして、日立とともにR/3導入プロジェクトを推進し、現在はR/3関連システムの開発とシステム運用を手がけているのが、宇部情報システム(UIS)です。UISは宇部興産のシステムを構成するサーバやストレージ、ネットワーク機器などをUISのデータセンターにすべて収容し、24時間365日の監視とミッションクリティカル運用を行っています。

「導入プロジェクトの過程では、日立のコンサルタントさんたちと一緒に

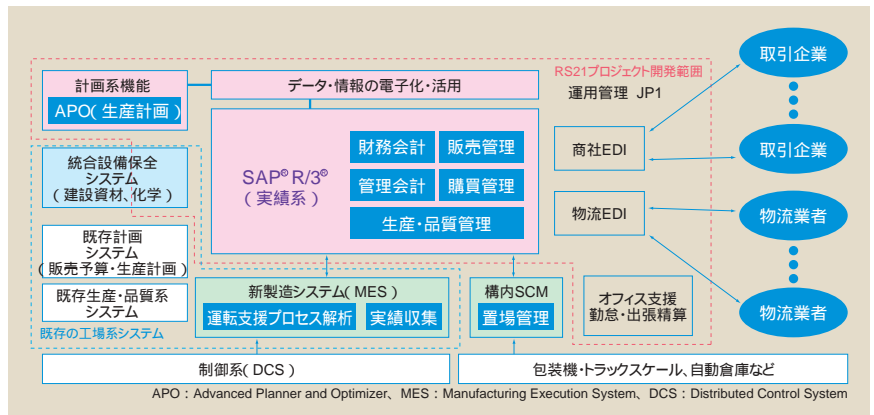


図1 宇部興産R/3システム概要図

ミッションクリティカルな運用を支える宇部情報システム

に何日も徹夜しながら頑張ったことが何よりも強く印象に残っていますね(笑)。当初は社内でもR/3に関する知識など、ほとんどない状態でしたが、長年のお付き合いの間に、R/3に関するさまざまな運用技術や保守に関するノウハウなどを完成度の高いドキュメントや指導によって吸収させていただき、稼働開始後の引き継ぎもスムーズに行うことができました。現在は社内にR/3のBASISコンサルタントをはじめ、25名のSAP認定コンサルタントを擁するまでになり、宇部興産さんのシステムのミッションクリティカル運用には大きな自信を持っています」

(UIS 情報処理サービス事業部 部長 猪八重 雅夫氏)

宇部興産のIT基盤はR/3を中心に、EAIツールや電子帳票システムなど、複数のシステムで構成されていますが、それら全体の運用管理を自動化することで、基幹システムの信頼性を高めているのが、日立の統合システム運用管理JP1です。

「システムの運用管理で最も重要なのは、やはり安定運行を維持することです。そのため、統合管理、ジョブ管理、ストレージ管理、アベイラビリティ管理、ネットワーク管理、資産・配布管理まで、JP1コンポーネントを幅広く活用し、省力化を図りながら24時間365日の運用監視を実現しています。統合監視サーバを中核に、夜間の障害発生時には統合通報管理システムTELstaffを適用したメールとパトライトの自動通報システム、また無人の際にも



UIS 情報処理サービス事業部 第4G 主査 蔵重 誠氏

メールや携帯電話で保守担当者へ自動通知するシステムを組んでおり、最小限の人員で安心して自動運用できるようになりました」
(UIS 情報処理サービス事業部 第4G 主査 蔵重 誠氏)
宇部興産とUISでは2000年2月にJP1 Version 5を初導入以来、センター内のサーバやネットワークを

JP1-R/3連携オプションによりJP1から直接R/3ジョブの登録・実行する方法を採用。

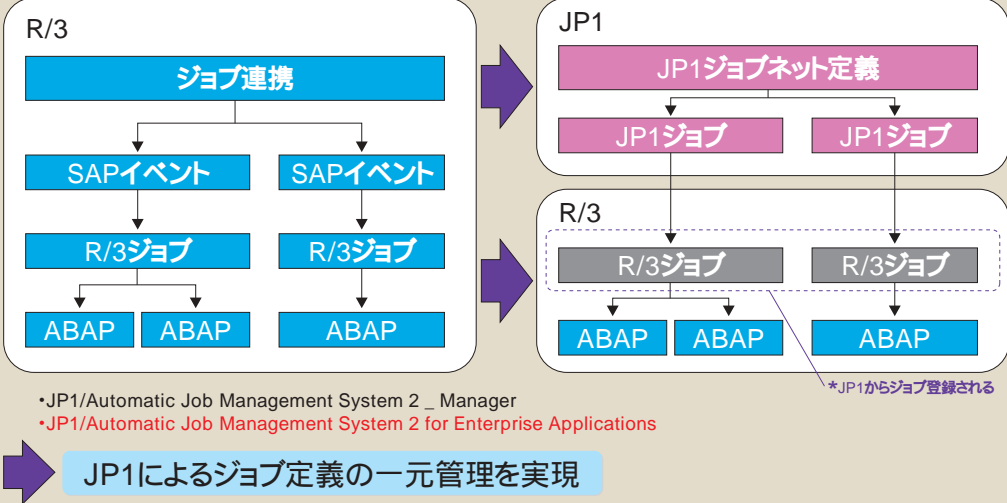


図2 ジョブ定義のJP1一元管理

ジョブの実行結果はR/3専用モニターと同じ情報をJP1/AJS2モニターより参照
R/3 SAPgui ジョブ一覧(T-cd:sm37)

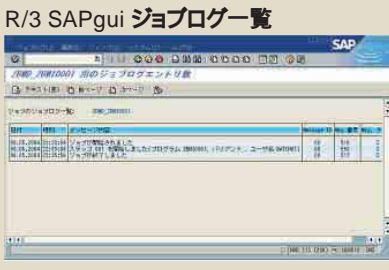
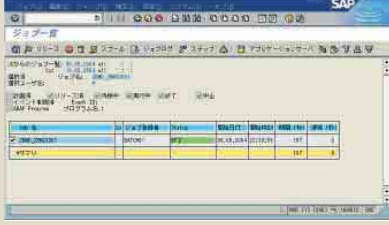
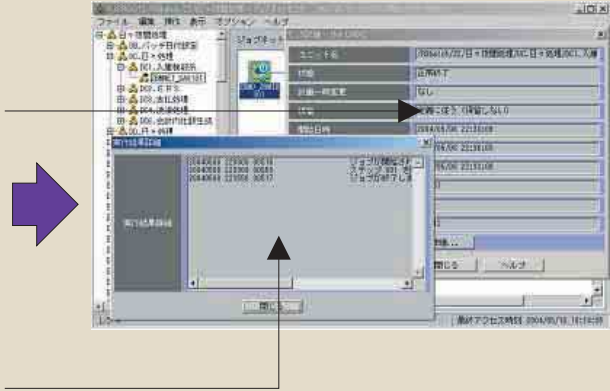


図3 R/3ジョブの実行結果

JP1/AJS2-View ジョブネットモニター(結果)



監視対象として徐々に適用範囲を拡大。Version 6からはR/3とのシームレスな連携が可能になったことで、R/3ジョブ運用への適用も本格的に開始されました。

JP1とR/3のジョブ運用をシームレスに連携



UIS 情報処理サービス事業部 第4G 登根 浩氏

当初使ってきたR/3独自のジョブ運用ツールでは、SAP独自のイベント発行を待つ動作するため、ジョブ全体の連携が見えないこと、障害発見の際にもSAP専用モニターにログインし、目視でジョブの実行結果を確認しなければならない、さらにR/3以外とのシステム間連携も困難な点などが大きな課題となってい

たそうです。

「そこでJP1 Version 6から投入されたR/3連携オプションのJP1/AM for R/3(現JP1/AJS2 for EAP)を適用しました。ジョブスケジューラJP1/AJS2と連携させることで、R/3のジョブスケジューリングをGUIでシームレスに定義でき、R/3の定型業務をすべてJP1から一元管理することが可能となりました。また、ジョブの実行結果についてはR/3専用モニターと同様の情報をJP1/AJS2-Viewの実行結果詳細により参照できます。ちなみに、全社R/3環境は、開発機、テスト機、本番機で構成されており、ジョブ運用についても、機能を明確に分割したJP1ジョブネット階層管理、環境移行に対応するジョブ連携設計などの工夫により安定運行を実現しています」

(UIS 情報処理サービス事業部 第4G 登根 浩氏)

JP1とR/3のシームレスなジョブ運用は、2001年4月に一部システムから開始され、2003年4月にはR/3全システムでの運用を実現。現在は約5,000強のR/3ジョブの安定稼働をJP1が支えています。

そしてこのJP1を活用したR/3ジョブ運用設計の技術とノウハウは、すでに他社システムへのコンサルティングにも適用されるほど、強力なERPソリューションへと成長。製造業に特化したソリューションや商品群を武器に、宇部興産グループ以外の市場へも積極的な展開を図っているUISにとって、非常に大きなアドバンテージとなっています。

蓄積した運用スキルを次世代システムにフィードバック

こうしたUISのR/3運用に対し、「システムが日立さんからUISに引き継がれた当初は、本当にこのままやっつけていけるのか、実は少し



UISのiDCはNTTの旧交換局をそのまま転用しているため、ビルの堅ろう性とセキュリティ性は抜群。県の「やまぐち情報スーパーネットワーク」のバックボーンアクセスも容易な好条件を備えている。インフラ構築やハウジング / ホスティングサービスを中心とした同社の「快眠サポートサービス」の詳細は<http://www.uis-inf.co.jp/products/kaimin/index.cfm>。

不安がありました」と話すのは、宇部興産 経営管理室 情報システム部 情報・インフラグループリーダーの岡本浩之氏。しかし、「それも杞憂に終わりました。現在はプロアクティブな稼働監視はもちろん、障害発生時のシステムの切り分けもできるほどのノウハウを備え、安心してUISに任せていけると確信しています」と笑顔で語ります。

「次なる大きなステップは、SAP R/3のバージョンアップとカスタマイズです。1999年の着手以降、本番稼働をはさんで約5年がたちましたが、その間、常に先端技術を駆使したプロジェクトを任せていただき、UISとしても付加価値の高いスキルを身に付ける多くのチャンスをいただいていたと感謝しています。バージョンアップでもその期待に応えられるよう、全力で頑張っていきたいと考えています」

(UIS 情報処理サービス事業部 第4G 課長 中村秀和氏)

「SAP R/3は徹底的に使うことで価値が出てくるソリューション。そのためにも、今以上の有効活用と業務プロセスの継続的な変革を図りたい」と強調する宇部興産の近藤部長。同社のチャレンジと、その戦略的なシステム活用と安定運用を支え続けるUISに対しても、日立は今後とも付加価値の高い製品とサービスでサポートしていきたいと考えています。

お問い合わせ先

(株)日立製作所 産業第一本部 第一営業部 第四グループ
担当:野村
TEL(03) 5471-2086 FAX(03) 5471-2939

情報提供サービス
JP1ホームページ: <http://www.hitachi.co.jp/jp1>